

たまねぎレポート【344号】

平成28年6月27日

阪南青果株式会社



社 内 報

5月の平均気温は、全国的に高温で、北海道と東北では、月平均気温は平年に比べ2.3℃高く、統計開始以来最高を記録した。降水量は、北日本の太平洋側と東日本で少なく、西日本の太平洋側で多かった。日照時間は、北日本ではかなり多かった。6月は、本州が梅雨入りとなったが、前線の影響で豪雨に見舞われた地区と雨量が少なく渇水状態の地区があり、農作物の生育にかなりの影響が出ている。

気象庁が発表した7～9月の3カ月予報では、全国的に高温の傾向となり、夏に酷暑をもたらすラニーニャ現象の影響で、残暑が厳しくなりそう。気象庁では「農作業中の熱中症や、高温障害など作物の管理に注意が必要」と呼び掛けている。月別予報は次の通り。

7月、北日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

5月の主要市場の野菜の入荷は、前月に続きいずれの中央卸売市場も前年を上回った。平均単価は何れの市場も前年を下回った。市場別では、札幌市場は前年比102%の入荷で、平均単価はkg¥237前年比94%。東京市場は前年比104%の入荷で、平均単価はkg¥259前年比94%。名古屋市場は前年比105%の入荷で、平均単価はkg¥242前年比90%。大阪本場は前年比104%の入荷で、平均単価はkg¥251前年比90%。福岡市場の入荷は前年比105%、平均単価はkg¥182で前年比91%となっている。

玉葱の入荷は市場毎にかなりのバラツキはあったが、総体的には潤沢であった。府県産は主力の佐賀が半作、兵庫が8分作となったものの、北海物の在庫が豊富で府県産の減少を補足した。東京市場以外の市場の入荷は前年を上回った。平均単価は何れの市場も前年を下回った。市場別では、札幌市場の入荷は3,4081トン前年比119%で、平均単価はkg¥82前年比71%。東京市場は11,608トン前年比94%の入荷で、平均単価はkg¥92前年比72%。名古屋市場は5,731トンの入荷で前

年比139%、平均単価はkg¥75前年比64%。大阪本場は4,104トンの入荷で前年比109%、平均単価はkg¥94前年比73%。福岡市場は3,212トンの入荷で前年比103%、平均単価はkg¥97前年比91%となっている。

日本農業新聞社が集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の5月の販売量は、85,192トン前年比109%(前月比102%)。平均単価はkg¥163前年比89%(前月比97%)となっている。販売量が前年比増となった品目はトマト(前年比123%)、ピーマン(〃116%)、レタス(〃113%)など11品目。前年比減は、サトイモ(前年比87%)の1品目だけ。価格が前年比高となったのは、キュウリがkg¥232で前年比12%高、ニンジンがkg¥156で12%高、ネギがkg¥500で10%高など6品目。前年比安となっているのは、ハクサイがkg¥58で前年比48%安、キャベツがkg¥92で33%安、タマネギがkg¥88で25%安、など8品目となっている。

東京都中央卸売市場の5月の野菜の入荷は、134,886トン前年比104%(前月比103%)であった。主要品目で前年比増となったのは、ニンジンが前年比118%であったのを始め、ハクサイ・トマトが前年比117%など11品目(前月は10品目)。前年比減となったのは、ダイコンの前年比92%を始め、タマネギが前年比94%、ホウレンソウ・サトイモが95%などの4品目(前月は6品目)。平均単価はkg¥259前年比94%(前月比97%)で、上旬¥260、中旬¥256、下旬¥261で目立った変動はなかった。主要品目で前年比高は、ニンジンが前月に続き前年比115%、キュウリが前年比112%、ネギが前年比110%など6品目(前月は5品目)。前年比安は、ハクサイが前年比42%、キャベツが前年比67%、タマネギが72%など9品目(前月も9品目)であった。

東京都中央卸売市場の5月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	134,886	104.4	102.5	259	93.6	95.9
た ま ね ぎ	11,608	94.3	80.5	92	72.2	105.8
キ ャ ベ ツ	17,349	104.8	99.2	100	67.1	87.0
ト マ ト	10,443	116.6	133.1	295	82.7	73.2
だ い こ ん	9,466	92.4	87.6	96	92.2	92.3
ば れ い し ょ	9,131	102.3	115.9	211	97.8	88.7
き ゆ う り	8,998	103.5	116.4	255	112.1	97.0
に ん じ ん	8,805	117.7	120.4	177	114.7	108.6
レ タ ス	8,232	109.8	103.6	170	83.0	79.8
は く さ い	5,882	116.7	97.6	60	42.4	61.2
か ぼ ち ゃ	2,659	115.9	86.3	177	82.3	140.5
な が い も	824	88.9	91.9	404	111.3	105.8
に ん に く	401	111.3	124.5	906	89.9	84.4
れ ん こ ん	307	104.1	73.6	796	106.6	97.6

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の5月の玉葱の入荷は、11,608トン前年比94%（前月比96%）で概ね順調であった。5月は北海物から府県物に移行し、主力は佐賀物に切り替わったが、佐賀物はベト病被害で入荷は平年を大きく下回った。佐賀物の入荷は5,350トンで前年比82%、占有率は46%で前年比7ポイントダウン。北海物は在庫が多く入荷は1,832トン前年比178%、占有率は19%で前年比11ポイントアップ。兵庫物の入荷は1,530トン前年比77%、占有率は13%で前年比3ポイントダウン。近在の千葉物は958トン前年比12

1%の入荷となったほか、香川、群馬、愛知などの中小産地の入荷も前年を大幅に上回った。平均単価はkg ¥92前年比72%(前月比106%)であった。旬別では上旬が¥77(前年比64%)、中旬が¥83(前年比68%)、下旬が¥118(前年比75%)と尻上がりで、例年の尻下がりパターンが反対の動きとなった。佐賀、淡路の大産地が病害で最盛期の入荷が減少したことが影響した。産地別の価格は、佐賀物がkg ¥78(前年比63%)、北海物が¥95(前年比77%)、兵庫物が¥124(前年比84%)、千葉が¥80(前年比74%)で、産地格差が大きかった。

6月に入り、北海物の在庫がなくなったことや、佐賀物の不作で入荷減が表面化し、需給はタイトで市況は日毎に値上がりした。上旬の入荷は前年比77%、主力の佐賀物は前年比33%の大幅減、兵庫物は前年比87%。平均単価はkg ¥143で前年比114%に値上がりした。中旬の入荷は前年比76%、佐賀物は前年比43%、兵庫物は前年比13%。平均単価はkg ¥149前年比116%で堅調に推移した。6月に入ってから品薄高が続いたが、昨今は入荷減ながら、高値疲れで相場は踊り場をむかえ一服状態にある。此の先、7月は盛夏で高温が続き消費は減退するが、入荷は更なる減少が予想され、荷受け各社は集荷販売対策に頭を痛めている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の5月の玉葱の入荷量は、5,731トン前年比139%(前月比90%)であった。北海物の加工向けが多かった。主力は最盛期に入った愛知物で、入荷は3,079トン前年比126%、占有率は54%で前年比5ポイントダウン。北海物は、2,248トンの入荷で前年比225%、占有率は39%で前年比15ポイントアップ。兵庫が240トン前年比50%、占有率は4%で前年比8%ダウン。兵庫物は病害による生産減のほか、関西市場の高値に追従できず、入荷は大幅減となった。平均単価はkg ¥75前年比64%(前月比100%)、産地別では、愛知物はkg ¥77前年比59%。北海物はkg ¥62前年

比84%。兵庫物はkg¥138前年比97%で、月前半は弱保合、月後半は強保合から上昇相場に転じた。

6月に入り、愛知物の入荷はピークが過ぎ、日々減少傾向となったが、兵庫物は指値が高く愛知物との価格差が大き過ぎ、引き合いが弱く前売りに馴染まなかった。先行き品不足を見越して、買参人には割安のNZ物を打診したものの興味が薄く、手当て買いに動く様子は見られなかった。此処に来て、愛知物は終盤を迎え、品質劣化で荷動きが鈍く、荷受け各社は販売に苦勞している。入荷が少ないことで、どうにか残さずに売り捌いている。此の先、荷受け各社は入荷減と高値にどの様に対処するかを問われている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の5月の玉葱の販売量は、4,104トン前年比109%(前月比90%)で順調であった。荷受けの積極的な荷引きが効を奏した。産地別では、北海物が前年比激増、兵庫物は前年並み、佐賀物が大幅減であった。兵庫(淡路)物の入荷は1,834トン前年比100%、占有率は45%で前年比4ポイントダウン。北海物の入荷は1,108トン前年比1,407%、占有率は27%で前年比25ポイントアップ。佐賀物は951トン前年比57%の入荷、占有率は23%で21ポイントダウン。平均単価はkg¥94前年比73%(前月比115%)で、月前半は保合、月後半は日毎に上昇した。産地別平均単価は、兵庫物がkg¥114前年比82%、北海物はkg¥73前年比69%、佐賀物はkg¥83前年比69%であった。月末には兵庫、佐賀物ともLサイズはkg¥200の高値に達した。

6月に入り、佐賀のベト病被害の実態が、淡路を始め競合産地に知れ渡り、値上げ販売をしないと入荷が途絶えるため、荷受けでは高値を追う販売になった。佐賀物は淡路物に比べ品質がかなり見劣りするが、割安なことで量販店につないでいる。買参人の間では佐賀物はイタミ多く人氣が離散し、20日迄の入荷は前年比35%に落ち込んでいる。

月半ばから淡路では田植期を迎え、パッカーであるJA、出荷業者への持込が少なく、加えてJA、業者とも先高を見込み、出荷を抑制し在庫の積み上げ姿勢を強めたため、販売量の確保は困難に成った。月後半は入荷減が続いているものの、20日迄の入荷は前年比97%で順調であった。異常高値で末端の動きが鈍化し、市況は軟化傾向となった。現在も引き合いは弱く、一時に比べ高値は20kg¥1,000前後値下がりしている。此の先、7月に入れば、淡路では冷蔵在庫期に入り、入荷が細るほか、他産地からの入荷が見込めず、荷受けの間では、値上げを誘導しながら数量確保の態勢を整えている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場(福果)の5月の玉葱の販売量は、3,212トン前年比103%(前月比97%)で前年比前月比ともに増であった。主力は佐賀物で、佐賀物の入荷は1,741トンで前年比95%、占有率は54%で前年比5ポイントダウン。北海物は577トンの入荷で前年比113%、占有率は18%で前年比2ポイントアップ。長崎物の入荷は380トンで前年比156%、占有率は12%で前年比4ポイントアップ。平均単価はkg¥97前年比91%(前月比115%)で、総じては堅調に推移した。産地別では、佐賀物はkg¥94で前年比80%。北海物はkg¥83で前年比97%。長崎物はkg¥98で前年比96%となっている。

6月に入り、佐賀物の入荷は日々減少の一途となり、値上げしても、値上げに飽き足らず入荷増が困難になった。他産地に出荷を要請するとともに、他市場に転送を要請し、前年並の数量確保に努めた。市況の高騰で量販店など納入価格の先決めは、終始赤字販売となった。月後半も品不足が続くと見てNZなどの輸入物も多少手当てをした。昨今では、佐賀物の入荷は日量5~10トンに減少、品質のバラツキが大きく、高値と安値の差が拡大している。香川物も週間2~3回のサイクルで入荷しているが、品質良好で高値販売となっている。品不足時には関西市場から兵庫物を転送して貰っているが、品質は今一つである。7月は盛夏で消費は減退するが、それ以上の品不足を心配している。

6月25日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷78トン、強い

北海道 20kgDB2L ¥2,800~2,000、L大 ¥3,300~2,600、L ¥3,000~2,050、
M ¥1,600。

佐 賀 20kgDB L ¥3,800~ M ¥3,800~3,500。

栃 木 20kgNT2L ¥2,650~2,300、 L ¥3,500~2,800、

新 潟 20kgDB2L ¥2,400~ L ¥3,700~ M ¥3,000~
S ¥2,200~

【太田市場】 入荷204トン、保合

佐 賀 20kgDBL ¥3,500~3,000、 M ¥3,500~3,000、

栃 木 20kgNT2L ¥2,600~2,500、 L ¥3,400~3,300、M ¥3,000~2,900。

愛 知 10kgDB2L ¥1,300~1,200、 L ¥1,600~1,400、M ¥1,600~1,400。

【名古屋北部】 入荷211トン、弱い

兵 庫 20kgDB L ¥3,600~3,500、 M ¥3,700~3,600。

愛 知 20kgNT2L ¥2,200~2,000、 L ¥3,000~2,800、 M ¥2,500~2,300。

【大阪本場】 入荷167トン、弱い

佐 賀 20kgDB L ¥3,000~ M ¥3,000~

佐 賀 10kgDB2L ¥1,800~1,600、 L ¥2,000~1,800、 M ¥1,800~1,700。

兵 庫 20kgDB2L ¥3,800~3,600、 L ¥3,800~3,600、 M ¥3,800~3,600。

【福岡市場】 入荷166トン、保合

佐 賀 10kgDB2L ¥2,500~1,500、 L ¥2,500~1,500、 M ¥2,000~1,500。

香 川 10kgDB2L ¥2,500~2,300、 L ¥2,500~2,300、 M ¥2,300~2,000。

兵 庫 20kgDB2L ¥4,000~3,800、 L ¥4,500~4,000、 M ¥4,000~3,800。

供給(産地)の動き

7月の佐賀物の出荷は、終盤を迎え前年比35～30%に落ち込むと予想している。兵庫(淡路)では、在庫減に加え冷蔵在庫期を迎え、出荷の減少傾向が続くことで、市場の品不足が深刻化する可能性が高い。府県の何れの産地も作柄の不作に加えて、市場高を受けて、出荷は前進化傾向にあり、在庫は前年を大きく下回っている。

北海物は、生育が前進化傾向で、早生は既に球肥大期に入っているが、6月は例年になく降雨が多く、局地的に湿害が見受けられる。産地では豊作期待ムードが強まっているが、現状からは、平年作以上は確保できると見ている。いずれにしても7月出荷は少量で、本格的な出荷は8月半ば以降になる。

輸入は、5月より回復歩調にあるが、7月の輸入は中国以外は端境期になる。ニュージー、オーストは終盤期だし、アメリカは:カリフォルニアの早生種だけである。増加はアメリカの貯蔵向け品種の収穫が始まる8月以降になる。

従って、国内外産とも7月の供給量は、かなり少なくなると見ている。

府県産地

7月の主力産地は、兵庫と佐賀になるが、産地在庫は平成になってからの最低量になる。その他の西日本の産地を始め、関東産地も前年を下回る。多いのは日本海側の富山、新潟等の新興産地のみで数量的には少量である。

兵庫(淡路島)では、べと病は全域で発生したが、厄介病のアーリーは少ない。6月は天候不良で、大手の生産者のなかに収穫遅れや収穫不能の圃場が散見された。現在、田植えが終わり困い(短期貯蔵)の出荷が始まっているが、今年は、中晩性の主力品種のターザンは、べと病のほか強風による葉折れ傷害が原因とされる品質不良で、ロス率が10～15%も発生している。5月中旬迄に収穫し貯蔵しているアンサー、オメガ、レクスター等の品種は、品質良好でロス率は少ない。今後出荷される玉葱は、品種や肥培管理に依り品質格差が大きくなる。中晩性は小粒で、冷蔵在庫は前年より少ないと見ている。

佐賀では、病害による生育不良と品質低下で、吊り玉葱は少なく、吊り小屋の殆どは空である。また、例年7月～8月半ば迄出荷される除湿乾燥処理の短期貯蔵もJAが1,600トン(前年比34%)、商系が200トン(前年比70%)と予想されている。即売出荷は7月で終了の見込みで前年より1カ月以上早い。

北海道産地

今年の北海道は、6月に入って雨天曇天が多く、日照時間が少ないものの、生育は定植が早まったことで、3日～5日前進化し順調である。草丈はやや徒長気味で軟弱傾向なので、此の先7月の高温早魃が心配されている。生育に地域差はあるものの、降雨が多く水捌けの悪い圃場では、局部的に葉鞘が色褪せ湿害の発生が散見される。順調な生育が続いている岩見沢地区では、ハマグリバエの幼虫が発見されたとのことで、防除対策に頭を悩ませている。大産地の北見地区は、草丈(平年比105%)、葉数(105%)、葉鞘径(平年比110%)で生育は3日程度前進化し順調である。

外国産地

5月の輸入は、速報値で、19,314トン前年比77%で、回復基調である。国別の輸入量は、中国が15,364トンで前年比78%。ニュージーランドが3,122トン前年比65%。オーストラリアが815トンで前年比140%となっている。府県産地の中晩生の出荷期となる6～8月は、主産地佐賀がベト病による大被害で、品不足が深刻化し、輸入商談が活発化しているが、成約量は予想より少ない。

中国、主力産地は江蘇、山東省に移行している。日本市場の6月は府県産の品不足で、青果向けの皮付きの輸入が増加すると予想されたが、小売筋等の引き合いが弱く、6月前半の皮付きは4,185トン前年比91%にとどまっている。ムキ玉も前年比85%にとどまっている。加工筋の北海物の原料在庫が多かったことや輸入価格の高値が影響している。現在価格は前月からは大きく値下がりして、20kg・C&F・ムキ玉\$7.80、皮付き\$6.20の水準である。

ニュージーランド、各国に向けての輸出が順調で、在庫が少なく輸出余力が乏しくなっている。6月前半まで堅調を続け、70～80mm20kg・C&F・¥1,850～2,000に上昇していた価格は此処に来て値下がりに転じている。

アメリカ、現在カリフォルニアの収穫、出荷が始まっているが、依然高値水準にあり、日本向け価格は、50㍍・C&F・\$15.95～16.25の水準。リーファコンテナ積みだが、府県の青切りと同じで貯蔵性が低い。

7月の市況見通し

現在市況は急速な値上がりで、消費が減退し6月下旬に沈静化し、高値は6月の高値水準からkg¥50～20値下りしている。7月は佐賀の出荷が激減し、淡路も冷蔵在庫期を迎え即売出荷は減少する。輸入も大幅な増加はない。盛夏を迎え消費も減少するが、北海物が出回る8月半ばまでは、需給は今まで以上にタイトで、相場は再び上昇基調になると見ている。(了)